

## 甲虫ニュース

March 1998

No. 121

## COLEOPTERISTS' NEWS

日本産エンマムシ上科概説 VIII<sup>註1</sup>

—ドウガネエンマムシ亜科—

大原 昌宏

## 1-3-9. ドウガネエンマムシ亜科 Saprininae

世界に34属約600種、日本からは4属14種1亜種(他に2不明種がある)が知られる。楕円形で体長約2.0-10.0ミリ。腐肉や糞に集まるものが多い。生息環境は多様で、内陸の森林や河原、また海浜や砂漠などの乾燥した環境にも多くの種がすむ。前胸腹板に触角を納める溝を縦にもつ(概説VI:図3)。前胸腹板葉(Prosternal lobe)は欠く。本亜科には、前胸背、鞘翅が平滑で光沢が強くルリ色などに輝く美しい種も含まれるが、一般に粗めの点刻を表面に具えたものが多い。その点刻は通常、頂上部(前胸背・鞘翅基部中央、小楯板付近)から消失する傾向をもつ。また、しばしば小楯板後方に一對の無点刻部分「鏡部」(зеркальца, in KRYZHANOVSKIY and REICHARDT, 1976)をもつ。鞘翅会合条と第5背条の間は広く離れる。

## 属までの検索

- 1(2) 前頭溝は欠く。……………マルマメエンマムシ属  
 2(1) 前頭溝をもつ。  
 3(4) 鞘翅表面は無点刻。前胸腹板突起は著しく狭くなり、平面部をもたない。……………ツヤハマベエンマムシ属  
 4(3) 鞘翅後方は点刻される。前胸腹板突起は幅広く、平面部をもつ。  
 5(8) 前胸腹板突起は、両側前方1/3に小さな穴をもつ。体長2.0-4.0mm。  
 6(7) 前頭表面には、1, 2本の横溝、または不規則な

横皺をもつ。前頭溝の前方部分は強く刻印され直線になる。……………ハマベエンマムシ属  
 7(6) 前頭表面には弱い点刻か皺を具える; 明瞭な横溝は欠く。前頭溝の前方部分は弱く刻印され、た

いては弧状。時折、途切れる。  
 ……ヒメハマベエンマムシ属  
 8(5) 前胸腹板突起は両側前方に穴はない。体長4.6-8.6mm。

……………ルリエンマムシ属  
 マルマメエンマムシ属

**Gnathonus** JACQUIEN-DUVAL, 1858

本亜科では、唯一前頭溝を欠くことで他属と区別できる。世界に22種、日本からは3種が知られる。一見オオマメエンマムシ *Dendrophilus* に似るが、前胸腹面の構造が異なる(腹板葉を欠く)。獣糞、死体から採集されるほか、鳥の巢内や倉庫などの屋内からも採集される。オオマメエンマムシやクロチビエンマムシと同様に貯穀害虫の天敵として記録される(HINTON, 1945)。

- 1(2) 尾節の点刻は丸い。前胸腹板突起前方に深い陥没を具える(図3A)。……………オオマルマメエンマムシ  
 2(1) 尾節の点刻は横長の楕円。前胸腹板突起に陥没はない。  
 3(4) 前脛節の外歯間は深くえぐられる。鞘翅会合溝は基部1/4にある。雄交尾器第10背板の後縁部は裁断状。……………マルマメエンマムシ  
 4(3) 前脛節の外歯間はわずかにえぐられるのみ。鞘翅会合溝は基部1/6にある。雄交尾器第10背板

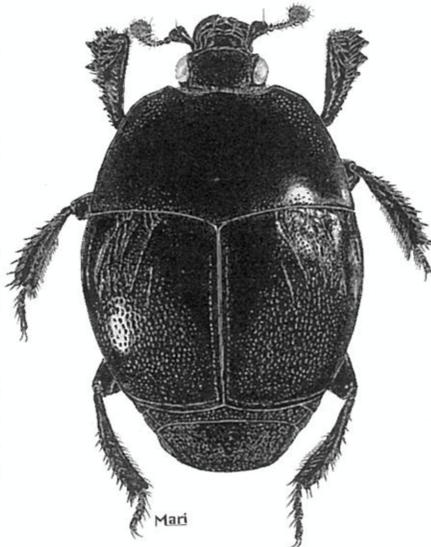


図1 ルリエンマムシ  
*Saprinus splendens* (PAYKULL)

<sup>註1</sup> M. ÔHARA, Taxonomic note on the superfamily Histeroidea of Japan, VIII.

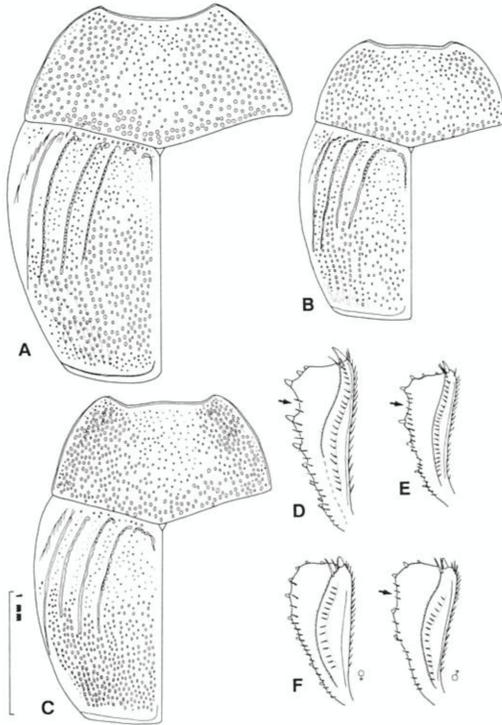


図2 マルマメエンマムシ属。A, D: オオマルマメエンマムシ, B, E: マルマメエンマムシ, C, F: ニセマルマメエンマムシ。A-C: 前胸背と左鞘翅, 背面。D-F: 左前脛節, 背面 (ÔHARA, 1994より)。

の後縁部は二叉状。……………ニセマルマメエンマムシ  
オオマルマメエンマムシ (図2A, D, 3A, 4A, D, G)

**Gnathoncus nannetensis** (MARSEUL, 1862)

図説 H: 222; ÔHARA, 1994: 215 [再記載, ♂交尾器]。

体長 (前胸背前角から尾節先端まで; mm) 雄 2.33-3.43, 雌 2.77-3.48, 幅雄 1.72-2.47, 雌 2.13-2.50。他の2種に比べて大型で, 前胸腹板突起の陥没をもつことで容易に区別される (図3A)。死体や獣糞から採集されるほか, 鳥の巣材や, ツバメの巣の下にたまった糞からも採集されている。分布: 北海道, 本州, 四国, 九州。旧北区ほぼ全域。  
マルマメエンマムシ (図2B, E, 3B, 4B, E, H)

**Gnathoncus rotundatus** (KUGELANN, 1792)

*Gnathoncus nanus*: 図説 N: 68; 図説 H: 222。……………  
……………*Gnathoncus rotundatus*: ÔHARA, 1994: 220 [再記載, ♂交尾器]。

体長 1.91-2.45, 幅 1.42-1.76。次種との区別は, 検索形質の一つである交尾器の形態差が確実である (図4B, H)。前種同様, 死体, 糞のほか, 鳥や獣の巣内から採集されている。分布: 北海道, 本州。全北区ほぼ全域。台湾。南アフリカ。チリ。

ニセマルマメエンマムシ (図2C, F, 3C, 4C, F, I)  
**Gnathoncus communis** (MARSEUL, 1862)

ÔHARA, 1994: 223 [再記載, ♂交尾器]。

体長 2.21-2.57, 幅 1.47-1.89。前種との区別には交尾器による確認が必要で (図4C, I), 外部の観察だけでは同定は困難。従来の前種の記録には本種が混じっている可能性がある。前種同様, 死体, 糞のほか, 鳥や獣の巣内から採集されているが, 国内からの生態記録はない。分布: 本州, 九州, 樺太, 北アメリカ, ヨーロッパ, コーカサス, 中央アジア, エジプト, オーストラリア。

ドウガネエンマムシ属

**Saprinus** ERICHSON, 1855

世界に約150種, 日本からは4種が知られる (このほかに *S. pecuinus* の記録が鹿児島からあるが疑問)。日本では他属に比べ大型種であるため, 亜科内での区別は容易 (海外ではハマベエンマムシ属ほどの小型種も多い)。前胸腹板突起の側面に一对の穴を持たない。雄は中脛節内側に長毛を具える (交尾の際に雌の側部をなでるのに用いられる)。獣糞, 死体に普通に見られる。

1(4) 鞘翅の第1と第4背条の間は, 粗く点刻される。

2(3) 尾節は全体に点刻され, 縦中央の無点刻の帯は欠く。中胸腹板は粗く点刻される。……………  
……………コルリエンマムシ

3(2) 尾節は全体に点刻されるが, 縦中央に無点刻の帯がある。中央腹板に粗点刻はない。……………

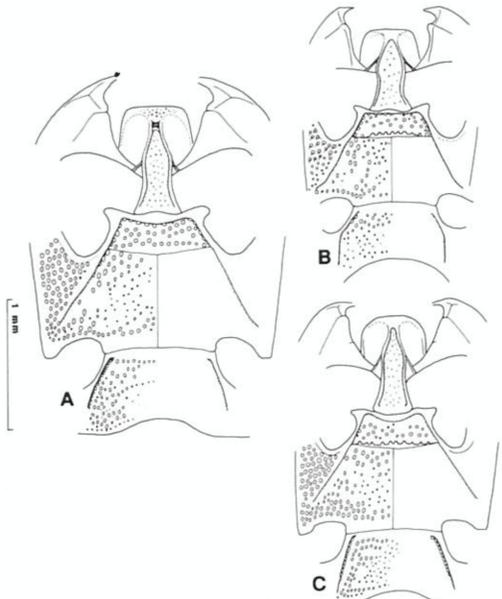


図3 マルマメエンマムシ属。A: オオマルマメエンマムシ, B: マルマメエンマムシ, C: ニセマルマメエンマムシ。前胸・中胸・後胸腹板, 腹面 (ÔHARA, 1994より)。

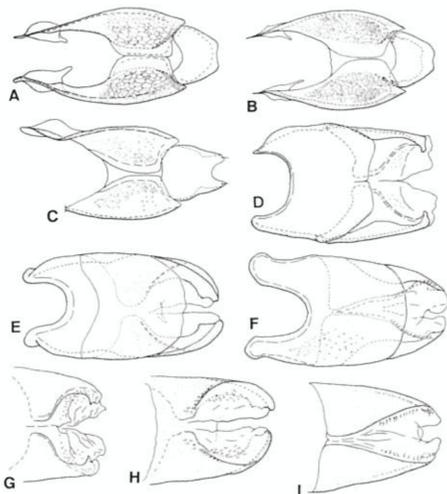


図4 マルマメエンマムシ属. A, D, G: オオマルマメエンマムシ, B, E, H: マルマメエンマムシ, C, F, I: ニセマルマメエンマムシ. A-C: 第9, 10背板, 背面. D-F: 第8背板と腹板, 背面. G-I: 第8腹板, 腹面 (OHARA, 1994より).

- .....ルリエンマムシ
- 4(1) 鞘翅の第1と第4背条の間の基半部は, 平滑, あるいは軽く点刻されるにすぎない.
- 5(6) 鞘翅第3背条は短く, 通常第2, 4背条の半分の長さしかない. ....ドウガネエンマムシ
- 6(5) 鞘翅第3背条はほぼ第2, 4背条と同じ長さ. ....ニセドウガネエンマムシ

コルリエンマムシ (図5A, B)

*Saprinus (Saprinus) cyaneus auricollis* MARSEUL, 1855

図説 H: 223; OHARA, 1994: 226 [再記載, ♂交尾器].

体長 4.95, 幅 3.24. 前胸背は紫がかった緑色, 鞘翅は緑色の金属光沢を呈する. 小型なこと, 点刻と背条の形質状態から他種と区別できる. 分布: 小笠原諸島, フィリピン, ニューギニア, バリ, ブル島, 火山列島.

ニセドウガネエンマムシ (図5E, F, 6A, B, C)

*Saprinus (Saprinus) niponicus* DAHLGREN, 1962

図説 H: 223; OHARA, 1994: 229 [再記載, ♂交尾器].

体長雄 4.05-5.71, 雌 4.52-6.66, 幅雄 3.00-4.24, 雌 3.38-4.71. 背面は茶色の光沢を呈する. 次種にきわめてよく似る. 2種は同所的におり, 同定には細心の注意が必要である. 交尾器による同定が確実 (図6). 動物の腐肉, 人糞, 犬糞によく集まる. 分布: 北海道, 本州, 四国, 九州. 韓国. 沿海州.

ドウガネエンマムシ (図5G, 6D, E, F)

*Saprinus (Saprinus) planiusculus* MOTSCHULSKY, 1849

*Saprinus cuspidatus*: 図説 N: 67.....  
*Saprinus planiusculus*: 図説 H: 223; OHARA, 1994:

232 [再記載, ♂交尾器].

体長雄 3.95-5.66, 雌 4.09-6.33, 幅雄 3.14-4.19, 雌 3.28-4.57. DAHLGREN (1962) が再検討するまでは, 前種と本種は「ドウガネエンマムシ」として混同されていた. 前種とは「鞘翅第3背条が短い」ことで区別できるが, 変異もあり, 不確実な場合は交尾器による確認が必要である (図6). 動物の腐肉, 人糞, 犬糞によく集まる. 分布: 北海道, 本州, 四国, 九州. 旧北区北部. ヨーロッパ, 中国, 韓国, カナリー諸島, アリゾナ諸島, 北アフリカ, 小アジア, ベトナム?.

ルリエンマムシ (図1, 5C, D)

*Saprinus (Saprinus) splendens* (PAYKULL, 1811)

図説 N: 67; 図説 H: 224; OHARA, 1994: 236 [再記載, ♂交尾器].

体長雄 5.50-6.85, 雌 6.14-7.66, 幅雄 3.36-4.76, 雌 4.33-5.24. ルリ色をした普通種のためなじみ深い. その色から, 日本産の他種と間違えることはないであろう. 望月 (1985) などに生活史が報告されている. 分布: 北海道, 本州, 四国, 九州, 南西諸島, 韓国, アフリカ熱帯部, アラビア, カシミアール, アフガニスタン, 東洋区, オーストラリア.

ヒメハマベエンマムシ属

*Hypocacculus* BICKHARDT, 1916

アフリカから日本にかけて, 5亜属 114種が知られる: *Toxometopon* 亜属 (2種, 南アフリカ), *Colpellus* 亜属 (6種, 南西アフリカ, エジプト, 中央アジア, インド), *Hypocacculus* 亜属 (14種, アフリ

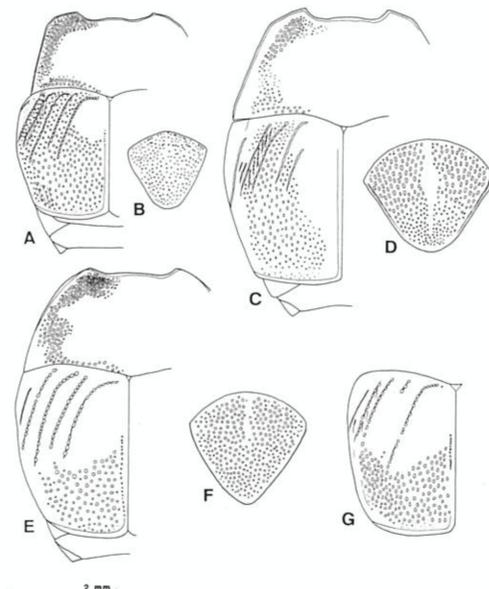


図5 ドウガネエンマムシ属. A, B: コルリエンマムシ, C, D: ルリエンマムシ, E, F: ニセドウガネエンマムシ, G: ドウガネエンマムシ. A, C, E, G: 前胸背と左鞘翅. B, D, F: 尾節 (OHARA, 1994より).

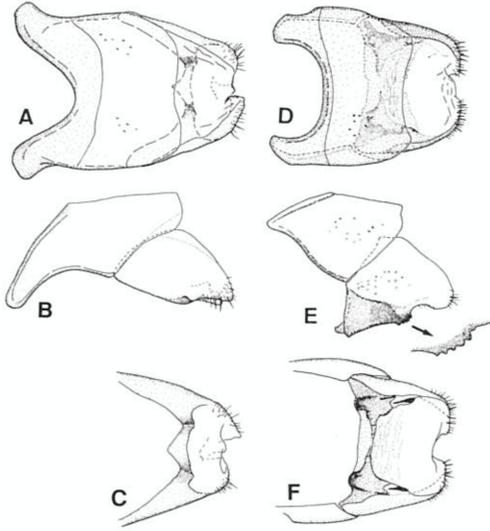


図6 A, B, C: ニセドウガネンマムシ, D, E, F: ドウガネンマムシ. A, D: 第8背板, 腹板, 背面. B, E: 同, 側面. C, F: 第8腹板先端, 腹面 (OHARA, 1994より).

カ, 中央アジア), *Nessus* 亜属 (90種, アフリカ, マダガスカル, 南ヨーロッパ, 中央アジア, インド, 日本), *Nannolepidius* 亜属 (1種, 南アフリカ). 国内には *Nessus* 亜属 1種が知られる. ハマベエンマムシ属に比べ小型で, 前頭に「明瞭な横溝」ではなく, 細かい皺を具えることで区別できる. しかし, これら2属はきわめて近縁なもので, 統合も検討すべきであろう.

ヒメハマベエンマムシ (図7)

*Hypocaccus (Nessus) asticus* (LEWIS, 1911)

*Hypocaccus asticus*: 図説 N: 67; 図説 H: 223. ……  
 ……*Hypocaccus asticus*: OHARA, 1994: 240.

体長 2.16-2.39, 幅 1.60-1.80. 小型で, 前頭に細かい皺をもつ (図7C). 鞘翅の点刻は *Hypocaccus* 属の種に比べ疎で細かい. 海浜植物の根際から採集される. 分布: 本州, 四国, 九州. 韓国.

ハマベエンマムシ属

*Hypocaccus* THOMSON, 1867

世界に2亜属 63種が知られる: ニセハマベエンマムシ亜属 *Hypocaccus* (51種, 全世界), ハマベエンマムシ亜属 *Baeckmanniolus* (12種, オーストラリア区を除く全世界). 日本からは5種1亜種が知られる (このほかに不明種 *aino* がある). 海浜性だが, 一部の種は内陸の河原の砂地にも生息する.

1(2) 前胸背は平滑で, 側部が弱く点刻されるにすぎない (図12A). 中胸腹板後縁部 (中胸-後胸縫合線) は波線とならない. ……ハマベエンマムシ亜属 ……ハマベエンマムシ

2(1) 前胸背は粗く点刻される. 中胸腹板後縁部は点刻を具えた波線となる. ……ニセハマベエンマムシ亜属

3(4) 尾節は無点刻の部分をもつ. その無点刻部分は, 時折粗い点刻列で二分される (図10E). ……アラメハマベエンマムシ

4(3) 尾節は全体に点刻され, その点刻は先端に向かって細くなる.

5(6) 前頭は粗い皺で密に覆われる (図10B). 中胸腹板縁条は中央で途切れる (図9B). ……ヤマハマベエンマムシ

6(5) 前頭に1, 2本の横溝がある. 中胸腹板縁条は完全.

7(10) 鞘翅基半部は平滑.

8(9) 鞘翅会合条は縁条とつながる. ……ニセハマベエンマムシ

9(8) 鞘翅会合条は縁条と結合しない. (再検討を要する; 種の記述参照). ……アカンハマベエンマムシ

10(7) 鞘翅半基部も粗く点刻される. ……カラカネハマベエンマムシ  
 アラメハマベエンマムシ (図8A, 9A, 10A, E)

*Hypocaccus (Hypocaccus) axeli* KRYZHANOVSKIJ, 1976

図説 H: 224; OHARA, 1994: 245 [再記載, ♂交尾器].

体長 3.68, 幅 2.76. 他種に比べやや大型で, 鞘翅は小楯板後方の鏡部を除き粗く密に点刻される. 尾節の中央に一对の無点刻部がある. 珍しい種で, 山地の河原から採集されている. 分布: 北海道, 本州, 沿海州.

カラカネハマベエンマムシ (図8D, 9D, 10D)

*Hypocaccus (Hypocaccus) lewisii* (SCHMIDT, 1890)

図説 H: 224; OHARA, 1994: 248 [再記載, ♂交尾器].

体長 2.26-3.17, 幅 1.67-2.39. 背面は粗く密に点刻を具え, 前胸背中央と鞘翅鏡部のみ無点刻に残される. 海浜の腐肉に集まる. 日本では北方に多く, 日本海側では九州まで分布が延びる. 分布: 北海道,

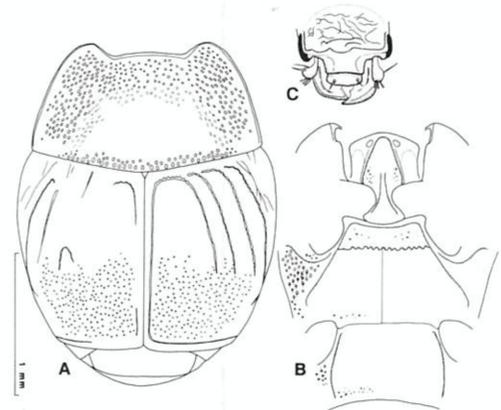


図7 ヒメハマベエンマムシ. A: 前胸背と鞘翅, 背面. B: 前胸・中胸・後胸腹板, 腹面. C: 頭部 (OHARA, 1994より).

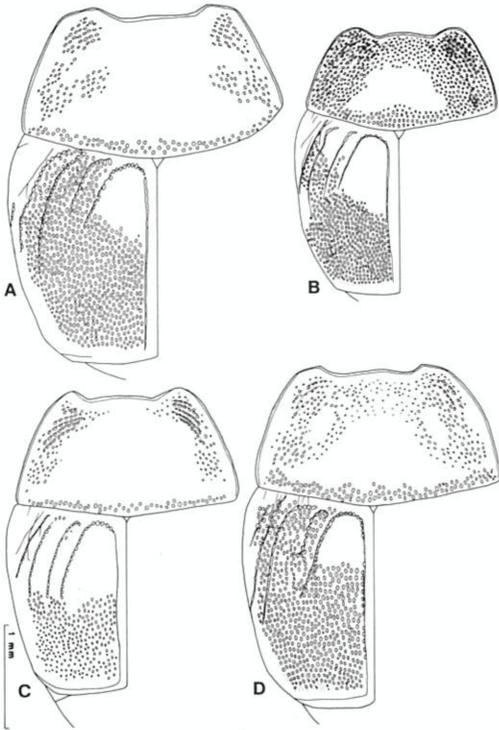


図8 ハマベエナムシ属. A: アラメハマベエナムシ, B: ヤマハマベエナムシ, C: ニセハマベエナムシ, D: カラカネハマベエナムシ. 前胸背と鞘翅, 背面 (ÔHARA, 1994).

本州, 九州. 樺太. 中千島. 沿海州. 韓国. ニセハマベエナムシ (図8C, 9C, 10C)

*Hypocaccus (Hypocaccus) sinae* (MARSEUL, 1862)

図説 N: 67; 図説 H: 223; ÔHARA, 1994: 250 [再記載, ♂交尾器].

体長 2.39-3.34, 幅 1.86-2.45. ハマベエナムシとよく似るが, 中胸腹板後縁部が点刻を具えた波状であることから区別できる. 同亜属他種とは鞘翅前方に点刻をもたないことから区別できる. ハマベエナムシと本種は同所的にいるため, 慎重な同定が必要である. 三角台紙で腹面を覆うと同定に手間がかかるため, 側面に台紙を張り付けるとよい. 海浜の腐肉から採集される. まれに内陸の河原からも採集される. 分布: 北海道, 本州, 四国, 九州. 大陸中国. ウスリー. 樺太. アフガニスタン. 東洋区. オーストラリア. 韓国.

ヤマハマベエナムシ (図8B, 9B, 10B)

*Hypocaccus (Hypocaccus) subaenus* (SCHMIDT, 1890)

図説 H: 223; ÔHARA, 1994: 252 [再記載, ♂交尾器].

他種よりわずかに小型で凸型になる. 背面は密に点刻され, 特に前胸背は粗点刻を密に具える. 中胸腹板にも点刻を具える. 中胸腹板後縁前縁は途中で

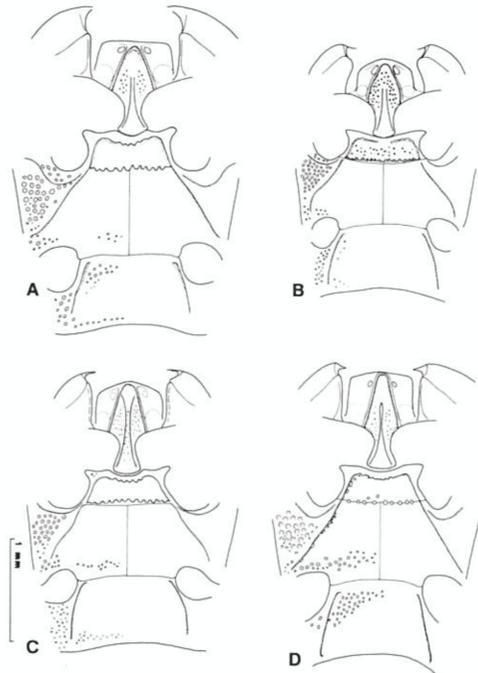


図9 ハマベエナムシ属. A: アラメハマベエナムシ, B: ヤマハマベエナムシ, C: ニセハマベエナムシ, D: カラカネハマベエナムシ. 前胸・中胸・後胸腹板, 腹面 (ÔHARA, 1994).

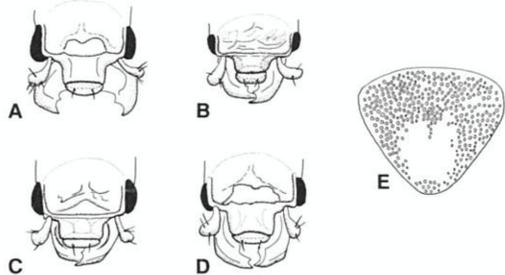


図10 ハマベエナムシ属. A, E: アラメハマベエナムシ, B: ヤマハマベエナムシ, C: ニセハマベエナムシ, D: カラカネハマベエナムシ. A-D: 前頭. E: 尾節 (ÔHARA, 1994).

途切れる. 河原の砂地から採集される. 地理的な分化があるようで, 特に本州のものは再検討が必要である. 分布: 北海道, 本州. 韓国.

アカンハマベエナムシ (図11)

*Hypocaccus (Hypocaccus) akanensis* M. ÔHARA, 1994

ÔHARA, 1994: 255 [再記載, ♂交尾器].

交尾器の形質が特徴的であるため, やや摩耗した雄一個体で記載したが, その後より状態のよい雌一個体が採集されたので, 近く再記載をする予定である. 分布: 北海道.

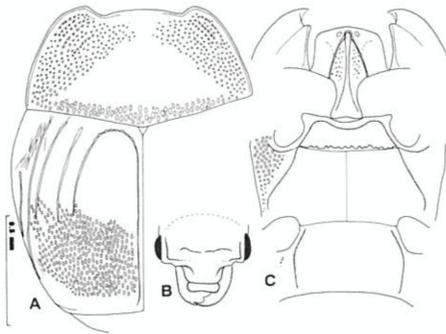


図11 アカンハマベエンマムシ。A: 前胸背と左鞘翅, 背面。B: 頭部。C: 前胸・中胸・後胸腹板, 腹面 (OHARA, 1994より)。

ハマベエンマムシ (図12)

*Hypocaccus (Baeckmanniolus) varians varians* (SCHMIDT, 1890)

図説 H: 223; OHARA, 1994: 258 [再記載, ♂交尾器]。

体長 2.45-4.19, 幅 1.90-3.20。サイズ, 表面の点刻状態に変異があり, 時に同定の難しい個体がある。前胸背の点刻はほとんどなく光沢が強い。中胸腹板後縁部に点刻はなく波状にもならない (まれに点刻を具える個体がいる)。尾節は先端 2/3 が無点刻となることが多い。本属中では最も普通種で, 海浜の動物性腐敗物から採集される。分布: 北海道, 本州, 四国, 九州, 中国, 台湾, 樺太, ベトナム, フィリピン, スリランカ, ソロモン, オーストラリア。

オガサワラハマベエンマムシ

*Hypocaccus (Baeckmanniolus) varians hatsune* (NAKANE, 1977)

図説 H: 224; OHARA, 1994: 262。

鞘翅が茶色になる。雄交尾器は原亜種との差は見い出せない。分布: 小笠原。

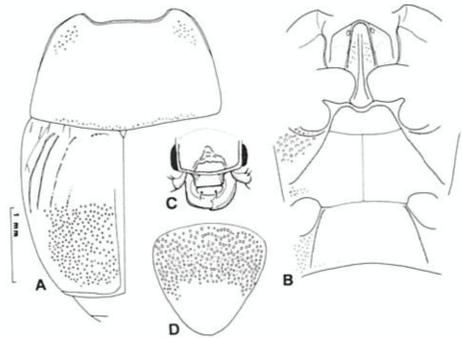


図12 ハマベエンマムシ。A: 前胸背と左鞘翅, 背面。B: 前胸・中胸・後胸腹板, 腹面。C: 頭部。D: 尾節 (OHARA, 1994より)。

このほかに沿海州と中国に亜種 *H. (B.) varians continentalis* (REICHARDT, 1941) がいる。

概説 V, VII の訂正 (甲虫ニュース 118, 120号)

V: p. 1. 左段 13 行目。「別亜属 *Euatholus*」を「亜属 *Atholus*, もたないものを亜属 *Euatholus*」に。VII: 5. 左 8. 「ヨフシツブエンマムシ族」の「ツブ」を取る。

参考文献 (1 で挙げたものは\*を付け略した)

- DAHLGREN, G. (1962). Über einige *Saprinus*-Arten (Col. Histeridae). *Opusc. Ent.*, 32: 213-224.  
 HINTON, H. E., 1945. The Histeridae associated with stored products. *Bull. Ent. Res.*, 35 (4): 309-340.  
 \*久松定成 (HISAMATSU, S.) (1985). [図説 H]  
 \*KRYZHANOVSKIJ, O. L. & REICHARDT, A. N. (1976). 望月 進 (MOCHIZUKI, S.) (1985). ルリエンマムシの生態に関する研究. I. 季節消長と腐肉トラップへの飛来消長. 日本応用動物昆虫学会誌, 29(1): 21-25.  
 \*中根猛彦 (NAKANE, T.) (1963). [図説 N]  
 \*OHARA, M. (1994).

(北海道大学昆虫体系学講座)

○石垣島におけるトゲアシヒメゾウムシの記録

トゲアシヒメゾウムシ *Manilabaris armipes* は, イギリス人昆虫研究家 George LEWIS が 1860 年代の終わりから 70 年代の初頭にかけての 5 年間に収集した採集品の中から, ROELOFS (1875) が *Baris* 属の新種として記載した種で, 最近になって, MORIMOTO & YOSHIHARA (1996) は本種をその形態的特徴により *Baris* 属から *Manilabaris* 属に移した。日本産昆虫総目録 (平嶋他, 1989) によれば, その分布は九州および沖縄本島となっており, それ以外の地域からの記録はないようである。筆者は 1997 年の春に石垣島を訪れた際, 本種を採集しているので報告する。

2 頭, 沖縄県石垣島バンナ公園, 1~7. IV. 1997, 筆者採集。

本稿を草するにあたり, 岡山市在住の吉原一美氏に種々ご教示いただいた。末筆ながら記して感謝申し上げます。

参考文献

- ROELOFS, W., 1875. Curculionides recueillis au japon par M. G. LEWIS. Troisième et dernière partie. *Ann. Soc. Ent. Belg.*, 18: 149-193, pls. 1-3.  
 MORIMOTO, K., & K. YOSHIHARA, 1996. On the Genera of the Oriental Baridinae (Coleoptera, Curculionidae). *Esakia*, (36): 1-59.  
 平嶋義宏監修, 1989. 日本産昆虫総目録. 九州大学昆虫学教室・日本野生生物研究センター。

(東京農大, 吉武 啓)

琉球列島の水生甲虫類, III\*

佐藤 正孝

分 布

琉球列島における水生甲虫類の分布の様相を表1~4に示した。それらから概観できることは、ヒメドロムシ科を除いては、ほとんどの種が琉球列島に広く分布し、さらに九州を経て北海道までも分布を拡げていることである。しかし、ゲンゴロウ科、ガムシ科の一部には分布が琉球列島内の特定の群島に限定されている種が認められる。これらの分布に関しては、それぞれの種の示す生態によって特徴づけられているようである。すなわち、ヒメドロムシ科やゲンゴロウ科とガムシ科の一部など分布が限定さ

れている種は (SATŌ, 1965, 1968, 1972; NAKANE, 1982), 清流域に生息していることで、あまり灯火にも飛来しない一群である。他の大多数の種は、どちらかといえば、止水域に生息しており、よく灯火に飛来する習性がある。このようにそれぞれの種の主生息域の特性が分布形成に大きく関与したようで、船による人々の往来が激しくなるにつれて、灯火による分布拡大が現在の琉球列島の水生甲虫類の分布状況を形成したといってもよい。それは、比較的近年、後水期以降というよりはここ数10年でさえ十分であったといえよう (佐藤, 1991)。

表1. 琉球列島におけるミズスマシ科, コガシラミズムシ科, コツプゲンゴロウ科の種の分布.

種 名	北 海 道	本 州	四 国	九 州	対 馬	種 子 島	屋 久 島	ト カ ラ	奄 美 大 島	徳 之 島	沖 縄 本 島	大 東 島	宮 古 島	石 垣 島	西 表 島	与 那 国 島	台 湾
HALIPLIDAE コガシラミズムシ科																	
<i>Peltodytes</i> コガシラミズムシ属																	
<i>sinensis</i> (HOPE, 1845) シナコガシラミズムシ								+	+		+		+	+	+	+	+
<i>Haliplus</i> ヒメコガシラミズムシ属																	
<i>kotoshonis</i> KANO et KAMIYA, 1931								+	+		+			+	+		+
コウトウコガシラミズムシ																	
GYRINIDAE ミズスマシ科																	
<i>Dineutus</i> オオミズスマシ属																	
<i>australis</i> (FABRICIUS, 1775)								+	+	+	+		+	+	+	+	+
ツマキレオオミズスマシ																	
<i>mellyi</i> RÉGIMBART, 1882										+	+			+	+	+	+
オキナワオオミズスマシ																	
<i>orientalis</i> (MoDEER, 1776) オオミズスマシ	+	+	+	+	+	+			+	+	+	+	+	+	+	+	+
<i>Gyrinus</i> ミズスマシ属																	
<i>ryukyuensis</i> M. SATŌ, 1971									+	+	+			+	+	+	
リュウキュウヒメミズスマシ																	
<i>Orectochilus</i> オナガミズスマシ属																	
<i>yayeyamensis</i> M. SATŌ, 1971														+	+		
ヤエヤマコオナガミズスマシ																	
NOTERIDAE コツプゲンゴロウ科																	
<i>Neohydrocoptus</i> チビコツプゲンゴロウ属																	
<i>subvittulus</i> (MOTSCHULSKY, 1859)									+					+	+	+	
チビコツプゲンゴロウ																	
<i>Canthydrus</i> ツヤコツプゲンゴロウ属																	
<i>nitidulus</i> SHARP, 1882								+	+	+	+		+	+	+	+	+
ツヤコツプゲンゴロウ																	
<i>Noterus</i> コツプゲンゴロウ属																	
<i>japonicus</i> SHARP, 1873 コツプゲンゴロウ	+	+	+	+		+		+	+		+		+	+	+	+	+

\* M. SATŌ, Aquatic Coleoptera of the Ryukyu Archipelago, III.

表2. 琉球列島におけるゲンゴロウ科の種の分布.

種名	北海道	本州	四国	九州	対馬	種子島	屋久島	トカラ	奄美大島	徳之島	沖縄本島	大東島	宮古島	石垣島	西表島	与那国島	台湾
DYTISCIDAE ゲンゴロウ科																	
<i>Nipponhydrus</i> キボシケシゲンゴロウ属																	
<i>bimaculatus</i> (M. SATO, 1972)									+	+	+						
フタキボシケシゲンゴロウ																	
<i>Microdytes</i> チビケシゲンゴロウ属																	
<i>uenoi</i> M. SATO, 1972																+	+
ウエノチビケシゲンゴロウ																	
<i>Hyphydrus</i> ケシゲンゴロウ属																	
<i>japonicus</i> SHARP, 1873 ケシゲンゴロウ	+	+	+	+	+	+	+	+								+	+
<i>laeviventris</i> SHARP, 1882		+		+					+	+							
ヒメケシゲンゴロウ																	
<i>lyratus</i> SWARTZ, 1808											+			+	+	+	+
タイワンケシゲンゴロウ																	
<i>pulchellus</i> CLARK, 1863 コケシゲンゴロウ						+	+	+	+	+	+		+	+	+	+	+
<i>Hydrovatus</i> マルケシゲンゴロウ属																	
<i>acuminatus</i> MOTSCHULSKY, 1859		+	+	+					+	+	+		+	+	+	+	+
コマルケシゲンゴロウ																	
<i>bonvouloiri</i> SHARP, 1882		+		+				+		+			+	+	+	+	+
オオマルケシゲンゴロウ																	
<i>seminarius</i> MOTSCHULSKY, 1859									+					+			+
アマミマルケシゲンゴロウ																	
<i>pumilus</i> SHARP, 1882														+	+		
チビマルケシゲンゴロウ																	
<i>subtilis</i> SHARP, 1882 マルケシゲンゴロウ	+	+	+					+	+	+	+			+	+	+	+
<i>Leiodytes</i> マルチビゲンゴロウ属																	
<i>orissaensis</i> (VAZIRANI, 1968)									+	+			+	+	+	+	+
サビモンマルチビゲンゴロウ																	
<i>Liodesus</i> チャイロチビゲンゴロウ属																	
<i>megacephalus</i> (GSCHWENDTNER, 1931)		+	+	+				+	+	+				+			+
チャイロチビゲンゴロウ																	
<i>Hydroglyphus</i> チビゲンゴロウ属																	
<i>inconstans</i> (REGIMBART, 1892)									+	+	+		+	+	+		+
チャマダラチビゲンゴロウ																	
<i>japonicus</i> (SHARP, 1873) チビゲンゴロウ	+	+	+	+	+	+	+					+	+	+	+	+	+
<i>kifunei</i> (NAKANE, 1987)														+	+		
キオビチビゲンゴロウ																	
<i>Limbodesus</i> ナガチビゲンゴロウ属																	
<i>compactus</i> (CLARK, 1862) ナガチビゲンゴロウ									+	+				+			
<i>Herophydrus</i> タマケシゲンゴロウ属																	
<i>rufus</i> (CLARK, 1863) タマケシゲンゴロウ									+	+	+	+		+	+	+	+
<i>Laccophilus</i> ツブゲンゴロウ属																	
<i>chinensis</i> BOHEMAN, 1858														+	+	+	+
ウスチャップゲンゴロウ																	
<i>difficilis</i> SHARP, 1873 ツブゲンゴロウ	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+				+	+		
<i>flexuosus</i> AUBÉ, 1838		+									+	+			+		+
サザナミツブゲンゴロウ																	
<i>kobensis</i> SHARP, 1873 コウベツブゲンゴロウ		+	+	+										+	+		
<i>pulicarius</i> SHARP, 1882														+	+		
ミナミツブゲンゴロウ																	
<i>sharpi</i> REGIMBART, 1889	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+		+	+	+	+
シャープツブゲンゴロウ																	
<i>Copelatus</i> セスジゲンゴロウ属																	
<i>andamanicus</i> REGIMBART, 1899									+	+	+	+	+			+	+
リュウキュウセスジゲンゴロウ																	



<i>Pelthydrus</i> マルチビガムシ属										
<i>okinawanus</i> NAKANE, 1982										+
オキナワマルチビガムシ										
<i>Laccobius</i> シジミガムシ属										
<i>nakanei</i> GENTILI, 1982										+
オキナワシジミガムシ										
<i>oscillans</i> SHARP, 1884	+	+	+	+			+	+		
コモンシジミガムシ										
<i>satoi</i> GENTILI, 1989									+	+
アマシジミガムシ										
<i>yonaguniensis</i> MATSUI, 1993										+
ヨナグニシジミガムシ										
<i>Crenitis</i> コマルガムシ属										
<i>tokarana</i> NAKANE, 1966										+
トカラコマルガムシ										
<i>Enochrus</i> ヒラタガムシ属										
<i>esuriens</i> (WALKER, 1858)	+	+	+				+	+	+	+
チビヒラタガムシ										
<i>ryukyuensis</i> MATSUI, 1994							+	+	+	+
リュウキュウチビヒラタガムシ										
<i>satomii</i> NAKANE et MATSUI, 1986									+	+
サトミヒラタガムシ										
<i>simulans</i> (SHARP, 1873)	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
キヒロヒラタガムシ										
<i>subsignatus</i> (HAROLD, 1877)	+	+	+						+	
マルヒラタガムシ										
<i>uniformis</i> (SHARP, 1884)	+		+			+	+	+		+
ウスグロヒラタガムシ										
<i>Helochares</i> スジヒラタガムシ属										
<i>anchoralis</i> SHARP, 1890						+	+	+	+	+
アカヒラタガムシ										
<i>ohkurai</i> M. SATO, 1976							+	+	+	+
クロヒラタガムシ										
<i>pallens</i> (MACLEAY, 1833)	+	+	+	+			+	+	+	+
ルイスヒラタガムシ										
<i>uenoi</i> MATSUI, 1995										+
ヨナグニヒラタガムシ										
<i>Chasmogenus</i> コクロヒラタガムシ属										
<i>abnormalis</i> (SHARP, 1890)							+	+	+	+
コクロヒラタガムシ										
<i>Hydrochara</i> コガムシ属										
<i>affinis</i> (SHARP, 1873)	+	+	+	+				+		+
コガムシ										
<i>Hydrophilus</i> ガムシ属										
<i>acuminatus</i> MOTSCHULSKY, 1853	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
ガムシ										
<i>bilineatus cashimirensis</i> REDTENBACHER, 1892	+	+	+				+	+	+	+
コガタガムシ										
<i>Sternolophus</i> ヒメガムシ属										
<i>inconspicuus</i> (NIETNER, 1857)									+	+
ミナミヒメガムシ										
<i>rufipes</i> (FABRICIUS, 1792)	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
ヒメガムシ										
<i>Amphiops</i> タマガムシ属										
<i>mater</i> SHARP, 1873	+	+	+	+				+		+
タマガムシ										
<i>Regimbartia</i> マメガムシ属										
<i>attenuata</i> (FABRICIUS, 1801)	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
マメガムシ										
<i>Berosus</i> ゴマフガムシ属										
<i>elongatulus</i> JORDAN, 1894							+	+		+
ナガトゲバゴマフガムシ										
<i>fairmairei</i> ZAITSEV, 1908										+
シナトゲバゴマフガムシ										
<i>japonicus</i> SHARP, 1873	+	+	+	+			+			+
ヤマトゴマフガムシ										
<i>pulchellus</i> MACLEAY, 1825	+		+				+	+	+	+
ホソゴマフガムシ										
<i>punctipennis</i> HAROLD, 1878	+	+	+	+	+	+	+	+		+
ゴマフガムシ										

表 4. 琉球列島におけるヒメドロムシ科, ドロムシ科の種の分布.

種 名	北 海 道	本 州	四 国	九 州	対 馬	種 子 島	屋 久 島	ト カ ラ 大 島	奄 美 大 島	徳 之 島	沖 縄 本 島	宮 古 島	石 垣 島	西 表 島	与 那 国 島	台 湾
ELMIDAE ヒメドロムシ科																
<i>Nomuraelmis</i> ノムラヒメドロムシ属																
<i>amamiensis</i> M. SATO, 1964 ノムラヒメドロムシ									+							
<i>Ordobrevia</i> ミゾドロムシ属																
<i>amamiensis amamiensis</i> (NOMURA, 1957)									+							
アマミミゾドロムシ																
<i>amamiensis okinawana</i> NOMURA, 1959											+					
オキナワミゾドロムシ																
<i>Stenelmis</i> アシナガミゾドロムシ属																
<i>aritai</i> M. SATO, 1965																+
ヨナグニアシナガミゾドロムシ																
<i>hisamatsui</i> M. SATO, 1960									+	+	+					
アカハラアシナガミゾドロムシ																
<i>ishiharai</i> M. SATO, 1965															+	+
ヤエヤマアシナガミゾドロムシ																
<i>Grouvellinus</i> ナガアシドロムシ属																
<i>subopacus</i> NOMURA, 1962 マルナガアシドロムシ									+	+	+					
<i>Zaitzevia</i> ツヤドロムシ属																
<i>aritai</i> M. SATO, 1963 アリタツヤドロムシ															+	+
<i>elongata</i> NOMURA, 1962 ナガツヤドロムシ									+	+	+					
<i>yaeyamana</i> M. SATO, 1963 ヤエヤマツヤドロムシ															+	+
<i>Urumaelmis</i> ウエノツヤドロムシ属																
<i>uenoi tokarana</i> (M. SATO, 1963)									+							
トカラツヤドロムシ																
<i>uenoi uenoi</i> (NOMURA, 1961)									+							
ウエノツヤドロムシ																
DRYOPIDAE ドロムシ科																
<i>Elmomorphus</i> ムナビロツヤドロムシ属																
<i>brevicornis amamiensis</i> NOMURA, 1959									+	+	+					
リュウキュウムナビロツヤドロムシ																

参考文献

阿部光典, 1988a. ゲンゴロウ類の分布に関するメモ. 甲虫ニュース, (83/84): 5-6.

阿部光典, 1988b. 琉球新記録, 石垣島のガムシ. 昆虫と自然, 23(13): 5-6.

阿部光典, 1989a. 日本新記録のゲンゴロウ2種. 甲虫ニュース, (87/88): 1-3.

阿部光典, 1989b. 沖縄県産 Hydradephaga の記録. 甲虫ニュース, (87/88): 9-12.

阿部光典, 1990. “幻のゲンゴロウ”を沖縄で発見す. 甲虫ニュース, (91): 5-7.

東 清二・金城正勝, 1987. 鞘翅目. 沖縄産昆虫目録, 沖縄県産生物目録シリーズ 1, 192-295.

BALKE, M. and M. SATO, 1995. *Limbodessus compactus* (CLARK): a widespread Austro-Oriental species, as revealed by its synonymy with two other species of Bidessini (Coleoptera: Dytiscidae). *Aquatic Insects*, 17: 187-192.

BRANCUCCI, M., 1983. Revision des especes est-palearctiques, orientales et australiennes du genre *Laccophilus* (Col. Dytiscidae). *Ent. Arb. Mus. G. Frey*, 31/32: 241-426.

GENTILI, E., 1982. *Laccobius* del Vecchio Mondo: Nuove specie e dati faunistici (Coleoptera: Hydrophilidae). *Oss. Fis. terr. Mus. Antonio Stoppani Semin. Arciv. Milano (n.s.)*, 10(1981): 31-38.

GENTILI, E., 1989. Alcune novita sul genere *Laccobius* (Coleoptera: Hydrophilidae). *Oss. Fis. terr. Mus. Antonio Stoppani Semin. Arciv. Milano (n.s.)*, 10(1987): 31-39.

林 正美ほか, 1989. 水中ライトトラップの効果. 埼玉大学紀要教育学部 (数学・自然科学), 38(2): 1-10.

HEBAUER, F., 1992. The species of the genus *Chasmogenus* SHARP, 1882 (Coleoptera, Hydrophilidae). *Acta Coleopt.*, 8: 61-92.

HEBAUER, F., 1994. The *Crenitis* of the Old World (Coleoptera, Hydrophilidae). *Acta Coleopt.*, 10: 3-40.

JÄCH, M. A., 1993. Revision of the Palearctic species of the genus *Limnebius* (Coleoptera: Hydraenidae). *Koleopt. Rdsch.*, 63: 99-187.

JÄCH, M. A. and E. MATSUI, 1994. The Japanese species of the genus *Limnebius* (Coleoptera: Hydraenidae).

- Jpn. J. Ent.*, 62: 267-274.
- 神谷一男, 1936. 昆虫綱, 鞘翅群-鞘翅目, 鼓豆科・小頭水虫科. 日本動物分類, 10 (8-6): i+3+55 pp. 三省堂, 東京.
- 神谷一男, 1938. 昆虫綱, 鞘翅群-鞘翅目, 龍蝨科. 日本動物分類, 10 (8-11): i+8+137 pp. 三省堂, 東京.
- KAMIYA, K., 1938. A systematic study of Japanese Dytiscidae. *J. Tokyo Nogyo Daigaku*, (5): 1-168, 7 pls.
- KANO, T. and K. KAMIYA, 1931. Two new species of Haliplidae from Japan. *Trans. Kansai ent. Soc.*, (2): 1-4, 1 pl.
- 北山 昭, 1991a. 西表島におけるオオイテモンジシマゲンゴロウの記録と形態に関する知見. 甲虫ニュース, (95): 7-8.
- 北山 昭, 1991b. ゲンゴロウ屋八重山に行く. 月刊むし, (246): 24-29.
- 北山 昭, 1993. 琉球のゲンゴロウ. 昆虫と自然, 28(8): 20-24.
- 松井英司, 1988a. 奄美諸島で採集した水生甲虫類 (1987-1988). 北九州の昆虫, 35(2): 113-121.
- 松井英司, 1988b. 与那国島で採集された水生甲虫類. 月刊むし, (214): 24-25.
- 松井英司, 1988c. トビイロゲンゴロウの北限. 昆虫と自然, 23(13): 5.
- 松井英司, 1989a. チンメルマンセスジゲンゴロウ琉球列島久米島に産する. 月刊むし, (226): 20.
- 松井英司, 1989b. ミヤタケダルマガムシの琉球列島(沖縄県)新記録. 昆虫と自然, 24(13): 5.
- 松井英司, 1990a. 琉球列島で採集した水生甲虫類 (1, 2). 北九州の昆虫, 37(2): 69-76, pls. 9-10; 37(3): 163-170, pls. 19-20.
- 松井英司, 1990b. 琉球列島に広く分布するチャマダラチビゲンゴロウ. 甲虫ニュース, (91): 4.
- 松井英司, 1990c. アマミマルケシゲンゴロウの全記録. 月刊むし, (238): 25.
- 松井英司, 1990d. アマミシジミガムシ奄美大島にも産す. 昆虫と自然, 25(9): 45.
- 松井英司, 1990e. キオビチビゲンゴロウ西表島で発見. 昆虫と自然, 25(13): 13.
- 松井英司, 1991a. 沖縄本島・石垣島・西表島の水生甲虫類. 甲虫ニュース, (94): 5-6.
- 松井英司, 1991b. 沖縄本島・石垣島・西表島の水生甲虫類(続き). 甲虫ニュース, (95): 11-12.
- MATSUI, E., 1993. A new species of the genus *Laccobius* (Coleoptera, Hydrophilidae) from the Ryukyu Islands, Japan. *Elytra, Tokyo*, 21: 319-321.
- MATSUI, E., 1994. Three new species of the genus *Enochrus* from Japan and Taiwan (Coleoptera: Hydrophilidae). *Tran. Shikoku ent. Soc. Matsuyama*, 20: 215-220.
- MATSUI, E., 1995. A new species of the genus *Helochares* (Coleoptera, Hydrophilidae) from Japan, with a key to the Japanese species of the subgenus *Hydrovaticus*. *Spec. Bull. Jpn. Soc. Coleopterol., Tokyo*, (4): 317-322.
- 松井英司・高井 泰・田辺 力, 1988. 鹿児島県の水生甲虫類. *Satsuma*, 37(100): 61-115.
- 松本浩一, 1991. アトホシヒラタマメゲンゴロウの石垣島からの記録. 甲虫ニュース, (93): 4-5.
- 森 正人・北山 昭, 1993. 図説日本のゲンゴロウ. 217 pp. 環境科学株式会社, 豊中.
- NAKANE, T., 1965. New or little-known Coleoptera from Japan and its adjacent regions, XXIII. *Fragm. coleopt., Tokyo*, (13): 51-54, (14): 55-58, (15): 59.
- NAKANE, T., 1982. New or little known Coleoptera from Japan and its adjacent regions, XXXV. *Rep. Fac. Sci. Kagoshima Univ. (Earth Sci. & Biol.)*, (15): 101-111.
- 中根猛彦, 1985. 日本産ヒメコガシラミズムシ属の種の再検討. 北九州の昆虫, 32(2): 61-67, pls. 6-7.
- 中根猛彦, 1986. リュウキュウセスジゲンゴロウの学名. 月刊むし, (190): 30.
- 中根猛彦, 1987a. 日本の雑甲虫覚え書, I. 北九州の昆虫, 34(3): 171-176, pl. 12.
- 中根猛彦, 1987b. 日本の甲虫(80), こがしらみずむし科. 昆虫と自然, 22(11): 26-30.
- 中根猛彦, 1987c. 日本の甲虫(81, 82), みずすまし科. 昆虫と自然, 22(12): 36-40, 22(13): 27-29.
- 中根猛彦, 1988. 日本の甲虫(83), むかしげんごろう科, こつぶげんごろう科, げんごろう科. 昆虫と自然, 23(5): 28-32.
- 中根猛彦, 1988-1990. 日本の甲虫(84~90), げんごろう科. 昆虫と自然, 23(9): 21-25, 23(10): 19-23, 24(4): 22-26, 24(9): 18-24, 24(11): 27-31, 25(1): 26-31, 25(4): 27-31, 25(10): 22-28.
- NAKANE, T., 1990. Notes on two species of Dytiscidae (Coleoptera). *Fragm. Coleopt., Chiba*, (45/48): 198.
- 中根猛彦, 1993. 日本の大型ゲンゴロウ. 昆虫と自然, 28(8): 2-7.
- NAKANE, T. and MATSUI, E., 1986. A new species of the genus *Enochrus* THOMSON from Japan, with a key to the species of the genus in Japan (Insecta, Coleoptera, Hydrophilidae). *Ooyodogakuen-houritu-keizai-kiyou, Miyazaki*, 2(2): 78-84.
- NILSSON, A. N. et al., 1989. A review of the genus- and family-group names of the family Dytiscidae Leach (Coleoptera). *Ent. scand.*, 20: 287-316.
- NILSSON, A. N. et al., 1995. An annotated list of Dytiscidae (Coleoptera) recorded from Taiwan. *Ent. Beitr.*, 45: 357-374.
- NOMURA, S., 1957. Drei neue Dryopiden-Arten aus Japan. *Akitu, Kyoto*, (6): 1-5.
- NOMURA, S., 1959. Notes on the Japanese Dryopoidea (Coleoptera), II. *Tôhō-Gakuhō, Tokyo*, (9): 33-38, 1 pl.
- NOMURA, S., 1961. Elmidae found in subterranean waters of Japan. *Akitu, Kyoto*, (10): 1-3.
- NOMURA, S., 1962. Some new and remarkable species of the Coleoptera from Japan and its adjacent regions. *Tôhō-Gakuhō, Tokyo*, (12): 35-51, 2 pls.
- 野村周平, 1991a. セスジゲンゴロウ類の採集記録. 甲虫ニュース, (93): 4.
- 野村周平, 1991b. 南大東島で日本初記録のマガラゲンゴロウを発見. 甲虫ニュース, (96): 5.
- SATŌ, M., 1960. Aquatic Coleoptera from Amami-Ōshima of the Ryukyu Islands (I). *Kontyu, Fukuoka*, 28: 251-254.
- SATŌ, M., 1961a. Aquatic Coleoptera from Amami-Ōshima of the Ryukyu Islands (II). *Akitu, Kyoto*, (10): 7-10.

- SATŌ, M., 1961b. *Hydaticus vittatus* (FABRICIUS) and its allied species (Coleoptera: Dytiscidae). *Trans. Shikoku ent. Soc. Matsuyama*, 7: 54-64.
- 佐藤正孝, 1962. 琉球列島徳之島産鼓豆科. 昆虫学評論, 14(1): 23-25.
- SATŌ, M., 1963. New forms in the genus *Zaitzevia* CHAMPION from the Ryukyus (Col. Elmidae). *New Entomologist, Ueda*, 12: 39-41.
- 佐藤正孝, 1964a. 徳和瀬洞 (徳之島) の昆虫類. *New Entomologist, Ueda*, 13: 69-73.
- SATŌ, M., 1964b. Studies on the marine beetles in Japan, II. Study on the Dytiscid beetle dwelling in the tide-pool. *J. Nagoya Jogakuin Coll.*, (10): 60-71.
- SATŌ, M., 1964c. Description of a new Elmidae-beetle from the Ryukyus. *Bull. Jpn. ent. Acad.*, 1: 11-12, pl. 3.
- SATŌ, M., 1964d. Description of new Dryopoid-beetles from the Ryukyus. *Bull. Jpn. ent. Acad.*, 1: 31-37.
- SATŌ, M., 1965. Dryopoidea of the Ryukyu Archipelago, I. *J. Nagoya Wom. Coll.*, (11): 76-94.
- SATŌ, M., 1968. Dryopoidea of the Ryukyu Archipelago, II. *J. Nagoya Wom. Coll.*, (14): 125-143.
- SATŌ, M., 1971. Description of two new Gyrinidae from the Ryukyu Archipelago (Coleoptera). *Kontyû, Tokyo*, 39: 273-275.
- SATŌ, M., 1972. New dytiscid beetles from Japan. *Annot. zool. Japon.*, 45: 49-59.
- 佐藤正孝, 1975. オキナワスジゲンゴロウ屋久島での記録によせて. 甲虫ニュース, (25/26): 9.
- SATŌ, M., 1976. Two *Helochares*-species from the Ryukyus (Hydrophilidae). *Ent. Rev. Japan, Osaka*, 29: 21-24.
- 佐藤正孝, 1977. 日本産ミズスマシ科概説 (1)~(3). 甲虫ニュース, (37): 1-5, (38): 1-2, (39): 1-4.
- 佐藤正孝, 1978. 日本産ホソガムシ科概説. 甲虫ニュース, (40): 1-3.
- SATŌ, M., 1982. Two new *Platynectes* species from the Ryukyus and Formosa (Coleoptera: Dytiscidae). *Spec. Iss. Mem. Retir. Emer. Prof. M. CHŪJŌ*, 1982: 1-4.
- 佐藤正孝, 1984a. ヒメガムシとその近似種の学名. 甲虫ニュース, (63): 1-2.
- 佐藤正孝, 1984b. 日本産水棲甲虫類の分類学的覚え書, I, II. 甲虫ニュース, (65): 1-4; (66): 1-4.
- 佐藤正孝, 1985a. 日本産水棲甲虫類の分類学的覚え書, III. 甲虫ニュース, (69): 1-5.
- 佐藤正孝, 1985b. 鞘翅目 (甲虫目). 日本産水生昆虫検索図説 (川合楨次編), 227-260. 東海大学出版会, 東京.
- SATŌ, M., 1985. The genus *Copelatus* of Japan. *Trans. Shikoku ent. Soc. Matsuyama*, 17: 57-67.
- SATŌ, M., 1990. Synonymic notes on *Copelatus* species (Dytiscidae). *Elytra, Tokyo*, 18: 81.
- 佐藤正孝, 1991. 南西諸島の甲虫相とその保全. 平成2年度南西諸島における野生生物の種の保存に不可欠な諸条件に関する研究報告書: 307-320. 環境庁自然保護局.
- SATŌ, M., 1995a. New record of *Copelatus minutissimus* (Coleoptera, Dytiscidae) from the Ryukyu Islands. *Elytra, Tokyo*, 23: 24.
- SATŌ, M., 1995b. Notes on some Coleopteran groups of the Himo-Japanese element in Northern Vietnam, I. On the genus *Nipponhydrus* (Dytiscidae). *Elytra, Tokyo*, 23: 263-266.
- SATŌ, M. and Y. MIYATAKE, 1964. Aquatic beetles of Iriomote-jima collected by the member of the second expedition of Kyusyu University to the Yaeyama Group, the Ryukyus. *Rept. Comm. Fore. Sci. Res. Kyusyu Univ.*, (2): 135-144.
- SATŌ, M. and M. BRANCUCCI, 1984. Synonymic notes on some Japanese Dytiscidae (Coleoptera). *Akitsu, Kyoto*, (n. ser. 67): 1-6.
- 佐藤正孝・楠井善久, 1984. 琉球列島伊平屋島, 伊是名島, 久米島の水生甲虫類. 北九州の昆蟲, 31(1): 43-45.
- SATŌ, M. and Y. KUSUI, 1989. Some records of aquatic Coleoptera from the Daito Islands, the Ryukyus. *Elytra, Tokyo*, 17: 8.
- SATŌ, M. et al., 1994. The Insect fauna of the Tokara Islands of the Ryukyu Archipelago. *WWF Japan Sci. Rept.*, (2): 251-309.
- SCHÖDL, S., 1992. Revision der gattung *Berosus* Leach-2. Teil: Die orientalischen arten der untergattung *Enoplurus* (Coleoptera: Hydrophilidae). *Koleopt. Rdsch.*, 62: 137-164.
- SCHÖDL, S., 1993. Revision der gattung *Berosus* LEACH-3. Teil: Die paläarktischen und orientalischen arten der untergattung *Berosus* s. str. (Coleoptera: Hydrophilidae). *Koleopt. Rdsch.*, 63: 189-233.
- SCHÖNMANN, H., 1994. Revision der gattung *Pelthydrus* ORCHYMONT, 1. Teil: *Globipelthydrus* subgen. n. (Coleoptera: Hydrophilidae). *Koleopt. Rdsch.*, 64: 189-222.
- 高井 泰, 1985. 12月初旬に奄美大島で採集した水生甲虫類. *Satsuma*, 34(94): 110-111.
- 高井 泰, 1986. コクロヒラタガムシの奄美群島徳之島での記録. 月刊むし, (180): 40.
- 上野俊一・佐藤正孝・森本 桂, 1973. 鞘翅目. 日本淡水生物学 (上野益三編), 610-635. 北隆館, 東京.
- 上野俊一・黒沢良彦・佐藤正孝編, 1985. 原色日本甲虫図鑑 (II), viii+514 pp. 保育社, 大阪.
- WATANABE, N., 1987. The Japanese species of *Helochares* (*Crephelochares*) (Col., Hydrophilidae), with description of a new species from Honshu. *Aquatic Insects*, 9: 11-15.
- [追記] 原稿作成後, 幾つかの報告が見られる. なかでも追加種の含まれている一つを追記しておきたい.
- NILSSON, A. N., 1996. A definition and revision of the *Agabus optatus*-group (Coleoptera, Dytiscidae); and example of Pacific intercontinental disjunction. *Entom. basil.*, 19: 621-651.
- Agabus nakanei* NILSSON, Hokkaido, Honshu, Kyushu, Tokara Is.  
= *optatus*: KAMIYA, 1938, NAKANE, 1959, SATŌ, 1985, MORI & KITAYAMA, 1993.
- この研究の一部は, 河川環境管理財団河川整備基金助成および名古屋女子大学特別研究助成を受けたものである.

(名古屋女子大学)

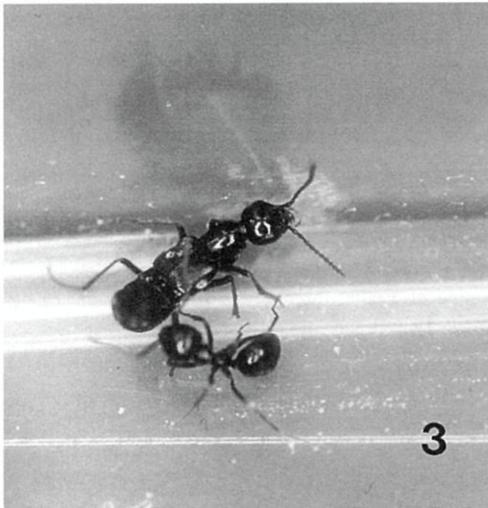
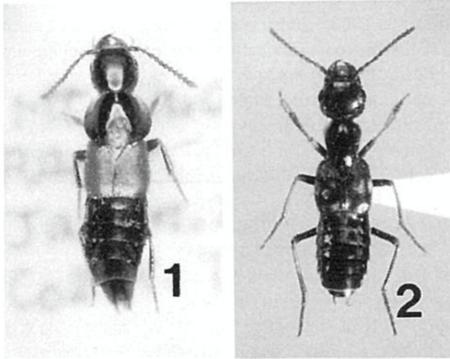
## ○クサアリモドキの巣より得られたハネカクシ2種

筆者は、*Lasius spatheus* クサアリモドキの巣の周辺に見られる甲虫類を採集した際、非常に記録の少ないハネカクシ2種を得ることができた。これらについて、採集時の状況等を踏まえて報告する。

クサアリモドキはコナラ等の根元に大きな巣を形成している事が多く、筆者が観察しているものもコナラの根元を囲む巨大な巣である。周囲には無数のアリと共に好蟻性のエンマムシ、アリヅカムシ、ハネカクシ等が多く徘徊している。これらの甲虫類のなかに、以下に示す2種が見られた。

1. *Quedius (Microsaurus) hirticornis* SHARP ツノヒゲツヤムネハネカクシ(図1) 1♂1♀, 27. VIII. 1997, 埼玉県嵐山町塩山(大字鎌形), 筆者採集, 渡辺泰明保管。

2. *Philetaerius elegans* SHARP オオズハイイロハネカクシ(図2) 2頭, 21. VI. 1996; 1頭, 4. VII. 1996; 2頭, 2. VIII. 1996; 10頭, 27. VIII. 1997; 2頭, 5. IX. 1997; 4頭, 11. IX. 1997, 同所, 筆者採集, 岸本年郎及び筆者保管。



ツノヒゲツヤムネハネカクシは、SHARPによって、本州の Mitzusawa から採集された1♀に基づき1889年に命名・記載され、今まで数頭の採集例があるのみの大変稀な種である。その動きは非常に俊敏で、巣の入口付近に這ってくるのが2度観察された。これまで、本種の好蟻性を示唆するような観察例は無いようであるが、本種が今まで見つかりにくいのも、蟻の巣付近に見られると言う特異な生態によるものなのであろうか。今後こうした採集を行うことで、さらに記録が増えるであろう。

オオズハイイロハネカクシは、*L. fuliginosus* クロクサアリの巣や行列の周辺において得られる事がすでに知られているが、やはり稀な種であり、クサアリモドキの巣の周辺より得られたのは初めてのようである。この巣の周辺においては多数の個体を確認している。徘徊時は腹部を反らしており、動き自体もそれほど早くないので、ちょっと見ると大きめのアリに見える。実際、普段歩いている分にはアリからの攻撃は少ないようである。本種とクサアリモドキを飼育ケースに入れ観察したところ、アリとはち合わせした時に腹部を強く曲げて、アリが腹部に触れるという行動が繰り返し見られた(図3)。何らかの分泌物を出しているのかもしれない。詳細は不明である。

末筆ながら、いろいろと御教示頂き、発表を薦めて下さった東京農業大学の渡辺泰明教授、東京都町田市の柴田泰利氏、東京農業大学大学院の岸本年郎氏に、またアリを同定の際、クサアリ類について御教示頂いた埼玉県寄居町の南部敏明氏に厚く御礼申し上げます。

## 参考文献

- 平野幸彦, 1982. サビハネカクシ, キンバエの一種を捕食する. 神奈川虫報, (67): 23.  
柴田泰利・渡辺 崇, 1997. ハネカクシ科. 丹沢大山自然環境総合調査報告書, 丹沢山地動植物目録: 196-205. 神奈川県環境部.

(埼玉県嵐山町, 豊田浩二)

## ○サツマナガエンマムシを樹皮下で採集

筆者は1996年9月14日から21日まで奄美大島で樹皮下に生息するアリヅカムシを採集していた際、サツマナガエンマムシ *Eblisia satzumae* (LEWIS, 1899) が得られたので報告しておきたい。

2頭, 鹿児島県奄美大島瀬市金作原, 17. IX. 1996, 筆者採集。

本種の同定をしていただいた北海道大学昆虫体系学講座の大原昌宏博士に謝意を表す。また、奄美大島で採集に協力していただいた鹿児島市の小野田繁氏に対して心から御礼申し上げます。

## 参考文献

- OHARA, M., 1994. A revision of the superfamily Histeroidea of Japan [Coleoptera]. *Ins. matsum. n.s.*, (51): 283 pp., 166 figs., 42 tabs.  
大原昌宏, 1996. 日本産エンマムシ上科概説 III, 甲虫ニュース, (115): 6. (石川県金沢市, 中田勝之)

## ○ホソキマルハナノミの神奈川県における記録

ホソキマルハナノミ *Elodes elegans* YOSHITOMI は本州、四国、九州のおもに太平洋岸の地域から知られ、関東地方では千葉県での1例のみの記録がある (YOSHITOMI, 1997).

筆者は最近、関東地方2記録目になる神奈川県で採集された本種の標本を調査することができたので、報告する。

1♂, 神奈川県伊勢原市薬師林道～日向山 (Yakushi-rindo～Mt. Hinata, Isehara-shi, Kanagawa Pref.), 16. V. 1996, 高橋直樹採集。

本種の幼虫期は未解明であるが、本属の幼虫は流水中に生息しているので、溪流沿いの植物のピーティングなどの採集法により、今後他の場所からも記録が追加されることが期待される。

末筆ながら貴重な標本を提供して下さった九州大学昆虫学教室の高橋直樹氏と神奈川県での記録の有無を教えてください下さった小田原市の平野幸彦氏にお礼申し上げます。

## 引用文献

YOSHITOMI, H., 1997. A revision of the Japanese species of the genera *Elodes* and *Sacodes* (Coleoptera, Scirtidae). *Elytra*, Tokyo, 25: 349-417.

((株)環境指標生物, 吉富博之)

## ○ヒメデバヒラタムシを福島県松枝岐村で採集

平野 (1994, 1995) は、従来1種だと考えられていたデバヒラタムシ *Prostomis latoris* REITTER に2種が混在していることを指摘し、頭部腹面の角状突起 (jugular processes) の先端が二又状となる種が *latoris* であり、単純に尖る種がヒメデバヒラタムシ *P. mordax* REITTER であるとの見解を発表した。平野 (1994) には両種の分布図が示されており、*mordax* の方が北に偏った分布をしていることがわかるが、東北地方においては宮城県に *latoris* のプロットがあるだけで、*mordax* の記録はないことになっている。筆者は、手もとにある本科の標本を見直したところ、福島県松枝岐村で採集した個体が *mordax* であることに気づいたので、記録しておきたい。

1頭, 福島県松枝岐村本村 (見通橋右岸の製材所), 3. VI. 1984. 筆者採集・保管。

採集地点の製材所は、現在では木工品販売店に変わっているが、当時は純然たる山村の製材所で、広葉樹の太い材が集積されていた。上記の個体はその材上から採集されたものである。なお、同定は上記角状突起の先端形状によって行った。

## 参考文献

平野幸彦, 1994. 日本のデバヒラタムシは何種か. 神奈川虫報, (107): 13-19.

——, 1995. デバヒラタムシの補遺. 神奈川虫報, (111): 21-23.

(埼玉県浦和市, 芳賀 馨)

## ○本州におけるウスオビコキノコムシの採集例

ウスオビコキノコムシ *Pseudotriphyllus lewisianus* (WOLLASTON) は四国と九州に分布するとされている (黒澤他, 1985) が、筆者は本州の阿武隈山地で採集したので報告する。

1頭, 福島県いわき市四時川林道, 9. XI. 1997.

広葉樹の根元の洞に生えたキノコにとまっていた。キノコは多孔菌科やタバコウロコタケ科ではなく、キシメジ科のようないわゆるキノコ型のキノコであった。

## 参考文献

黒澤良彦他, 1985. 原色日本甲虫図鑑 (III), 保育社。

(東京都足立区, 木元達之助)

## ○コクロオバボタルの採集例

コクロオバボタル *Lucidina okadai* NAKANE et OHBAYASHI は多くない種のようなので、筆者は埼玉県産の標本を検査する機会に恵まれたので報告する。

1頭, 埼玉県越谷市東町, 11. VIII. 1994, 遠藤千秋採集。

採集地は用水路や溜め池のある水田で、雑草のスウィーピングによって採集された。

末筆ながら、標本を恵下さった遠藤千秋氏、同定下さった松田 潔氏に厚くお礼申し上げます。

(東京都足立区, 木元達之助)

## ○ヒゲブトコメツキも跳ねる

ヒゲブトコメツキ科 (Throscidae) は、コメツキダマシ科 (Eucnemidae)、コメツキムシ科 (Elateridae) などに近縁であるが、これらの科の甲虫のように“跳ねる”観察例はないものと思われる。

筆者は、ヒゲブトコメツキ科の1種 (*Trixagus* sp.) が“跳ねる”のを観察したので報告しておきたい。

1995年7月7日、三重県久居市射場町の自宅灯火に *Trixagus* sp. が1頭飛来した。机上を歩行する同個体を見つけ、ちょうど手に持っていた鉛筆の先でいたずらにそれをひっくり返した。すると同個体はしばらくせわしなく足を動かしていたが、やがて足やアンテナを縮めて静止した。5秒程そのままの姿勢で静止していたが、いきなり跳ね返り、腹面から着地して足早に歩きだした。数回同じ実験を繰り返し、同様の結果を得た。そして跳ね返るときはコメツキムシやコメツキダマシと同様に胸部を屈曲させて地面 (机) を打ちつけることがわかった。

佐々治寛之先生にこのことをお話したところ、体の構造上、当然跳ね返ることはできるであろうとの御教示をいただいた。

文末ながら御教示をいただいた佐々治先生と、本種を同定していただいた平野幸彦氏に感謝したい。

(三重県久居市, 秋田勝己)

## ○ホソキボシアオゴミムシを大隅半島で採集

ホソキボシアオゴミムシ *Chlaenius rufifemoratus* MACLEAY は横幅の狭い特異な体形をしたアオゴミムシで、屋久島から与那国島にかけての南西諸島と、台湾からインドにかけてのアジア東南部に分布する(笠原, 1984)。従来本種の日本本土からの採集記録はなかったようであるが、筆者は本種を大隅半島で採集したので記録しておきたい。

1♂, 鹿児島県肝属郡内之浦町大浦(山添林道入口), 3.V.1997, 筆者採集・保管。

大浦川(左支川)の標高150mの渡河点で、橋の橋台ぎわのススキを叩き網して採集した。本種がススキの叩き網で得られることは笠原(1980)が既に報告している。本種と似た体形をしているクロモンヒラナガゴミムシ *Hexagonia insignis* BATES もススキの叩き網で得られることから、偶然採れたのではない(おそらく、ススキの葉のつけ根に隠れる習性がある)と思い、周辺のススキを全て叩き網してみたが、追加個体は得られなかった。なお、周辺の植生は常緑広葉樹原生林の伐採跡で、放置された二次林と杉の植林が半々程度に混在していた。



末筆ながら、現地調査にあたりお世話になった船間 忍氏に心からお礼申しあげる。

## 参考文献

笠原須磨生, 1980. ススキの歩行虫2種. 甲虫ニュース, (52): 6.

——, 1984. いわゆる“チュウジョウアオゴミムシ”について. 甲虫ニュース, (65): 5-7.

(埼玉県浦和市, 芳賀 馨)

## ◇日本鞘翅学会(1998年)◇

〈現状〉1997年10月末現在の会員数

名誉会員4名, 賛助会員8名, 一般会員545名, 海外会員9名, 計566名。

〈会長〉佐藤正孝

〈副会長〉露木繁雄

〈常任幹事〉渡辺泰明(総務・庶務); 野村周平(同); 岩田隆太郎(同); 斉藤秀生(同); 斉藤明子(会計); 上野俊一(編集委員長); 新里達他(Elytra編集); 妹尾俊男(甲虫ニュース編集); 石田勝義(渉外); 平野幸彦(企画); 大木 裕(同); 江本健一(木曜

談話会)

〈幹事〉安藤清志; 荒谷邦雄; 藤田 宏; 林 靖彦; 穂積俊文(名古屋支部長); 常喜 豊; 笠原須磨生; 川那部 真; 日下部良康; 森本 桂; 中村俊彦; 西川協一; 大原昌宏; 大林延夫; 遠山雅夫; 山上 明

〈会計監査〉田添京二; 渡 弘

〈Elytra編集委員〉上野俊一(委員長); 近 雅博; 森本 桂; 新里達也; 岡島秀治; 高桑正敏

《事務局・入会問合せ先・住所変更連絡先・退会届先・Elytra投稿先》〒169-0073 東京都新宿区百人町3-23-1, 国立科学博物館分館 動物研究部昆虫第二研究室気付, 日本鞘翅学会宛(代表 tel. 03-3364-2311/fax. 03-3364-7104)

《甲虫ニュース投稿先》〒196-0012 東京都昭島市つつじが丘2-6-22-806, 妹尾俊男宛(tel. 042-541-6640/senoh@ra2.so-net.or.jp)

《入会方法》郵便振替にて①郵便番号・住所・氏名(ふり仮名も), ②一般・賛助の会員の区別, ③何年度から入会かを明記の上, 00180-3-401793へ送金のこと。大会(11月)の際の受付での入金も可。

《会費》新入会費¥1,000; 一般会員年会費¥6,000; 国外会員年会費¥8,000; 賛助会員年会費¥10,000以上, 前納制。

《大会・例会問合せ先》〒250-0865 神奈川県小田原市蓮正寺585-29, 平野幸彦宛(tel. 0465-36-9791)

《木曜談話会》〒110-0015 東京都台東区東上野4-26-8, 福田ビル6F(tel. 03-3841-4878)(毎週木曜日, 20:00~)

《(旧)鞘翅目学会・(旧)甲虫談話会・鞘翅学会の刊行物バックナンバー取扱い》〒973-8691 いわき市内郷郵便局私書箱11号, TTS昆虫図書館宛(tel. 0246-27-2521/fax. 0246-27-4031)

(総務・庶務担当, 岩田隆太郎)

## 日本鞘翅学会

会費(一カ年)6,000円, 次号は1998年6月下旬発行予定

発行人 佐藤正孝

発行所 日本鞘翅学会 東京都新宿区百人町3-23-1 国立科学博物館分館昆虫第2研究室

電話(3364)2311, 振替 00180-3-401793

印刷所 (株)国際文献印刷社

## 昆虫学研究器具は「志賀昆虫」へ

日本ではじめて出来たステンレス製有頭昆虫針00, 0, 1, 2, 3, 4, 5, 6号, 有頭ダブル針も出来ました。その他, 採集, 製作器具一切豊富に取り揃えております。

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1丁目7-6

振替 00130-4-21129

電話 (03) 3409-6401 (ムシは一番)

FAX (03) 3409-6160

(カタログ贈呈) (株)志賀昆虫普及社